

クラウド時代のシステム運用とは？ ～クラウド時代のシステム運用はこれだ！～ 分科会発表資料 別紙
本資料の各項目の詳細は、成果報告書「3.研究内容」をご確認ください。

大項目	中項目	小項目	想定効果
3.1 技術の変化に対応できる人材を確保するためには	3.1.1 運用業務に対する正当な評価を実現するためのアクション	1) 評価基準の改定	運用業務に対する正当かつ客観的な評価が可能となる。正当な評価を得られることで、運用担当者が自身の業務に誇りを持ち、モチベーションを維持できるようになることで、人材流出を防ぐことができる。また、発案会や社内報などで運用業務を発信することで、運用業務に興味を持った人材の確保が期待できる。
		2) 運用業務理解促進に向けた取り組み	
	3.1.2 社員のスキルアップに対する意欲を維持できる環境を実現するためのアクション	1) キャリア実現に向けた支援	高度な資格を有する社員、管理職や経営を目指す社員など、企業にとって幅広い人材育成、人材確保ができる。また、企業からキャリアを積んだ社員、企業が求める資格を有する社員へ報酬金などによる還元により、企業と社員の関係性をより強固にし、企業と社員が一丸となってビジネス拡大、新規ビジネスへのチャレンジが期待できる。
3.2 クラウド時代に適したサービス・システムの提供をするためには	3.2.1 継続的改善ができる組織作りのためのアクション	レガシーシステム脱却計画の推進	レガシーシステムの運用に注力せざるを得ない人材を解放する。これにより、新たな技術や領域に挑戦する機会を創出し、企業の戦略に合わせた業務に割り当てることが可能になる。結果として、企業は環境の変化に対応できるようになり、新たにビジネスチャンスを得ることができる。
		2) 開発部門と運用部門による協力体制の構築と継続的改善	社内開発標準にアジャイル開発を採用し、開発部門と運用部門が協力したDevOpsを構築することで、柔軟かつ迅速な開発、運用が可能となる。その結果、継続的改善に取り組める組織となるため、技術変化の激しいクラウド時代に対応することができる。
	3.2.2 組織全体のITリテラシーの底上げを実現するためのアクション	ITリテラシーの底上げ	
			組織全体のITリテラシーを底上げする事により、経営層および社員のITリテラシー格差がなくなり、円滑なコミュニケーションができるようになる。また、経営層がIT投資に対して適切な判断ができるようになるため、ビジネスチャンスの拡大も期待できる。